

情報洪水を乗り越え、 効率的な情報活用創出へ！

情報活用委員会 委員長

長田 恵祐 氏

(所属：京セラ株式会社)



interview

自己紹介

開発部門を経て2016年より知財部門の世界に仲間入り！
2019年より旧情報検索委員会（2020年に情報活用委員会へ改称）に
所属、2023年4月より現職。
趣味は音楽鑑賞、最近は子供の影響でサッカー観戦が増えました！

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

【2025年度の研究テーマ】

- 第1小委員会：IPランドスケープへの生成AIの活用に関する研究
- 第2小委員会：社内に普及・浸透させるためのIPランドスケープに関する研究
- 第3小委員会：特許情報と併せる非特許情報に関する研究
- 第4小委員会：非財務情報の可視化に関する研究
- 第5小委員会：発明者分析に関する研究
- 第6小委員会：ノイズの少ない特許母集団作成に関する研究
- 第7小委員会：調査・分析データベースにおけるAI機能の現状とトレンドの研究

当委員会では、まず委員のみなさんから意見をいただき、それを参考にしながら、時代に合ったテーマを設定しています。最近では、IPランドスケープの推進や、コーポレートガバナンス・コードの改訂により、特許など無形資産の重要性が増している背景もあることから、幅広い情報の活用に関する研究の幅を広げ、効率的な情報活用創出に結び付けたテーマを選定する傾向にあります。

研究テーマは、応募時点では多くの意見を集められるようあえて抽象的に設定しています。そして、テーマリーダーを中心に委員の間で議論を重ね、委員会活動の中でテーマの具体的な方向性を決定します。

※当委員会は日本特許情報機構（Japio）が毎年リリースしているJapio YEAR BOOKに寄稿しています。当委員会の研究活動の概要が分かる内容になっていますので是非ご覧ください！

○Japio YEAR BOOK 2025寄稿

https://japio.or.jp/00yearbook/files/2025book/25_3_02.pdf

Q 委員会の特長／魅力は？

他の委員会でも言えることですが、委員会に参加することで、研究テーマに関連する深い専門知識を習得できるだけでなく、多くの関係者との接点を増やすことができます。これはJIPA委員会ならではの特長であり、魅力です。

社内だけで業務をしていると、どうしても社内の考え方に固まりがちで、得られるものに限界があります。そこで、社外に出て委員会に参加し、他業界や他社の人と交流すれば、社内では得られなかった新しい視点や刺激が得られます。特に当委員会は、情報収集・検索・分析、戦略立案・方針策定に向けた提案など幅広く取り組んでいるため、多様な価値観を持った方々と交流できます。そして、活動の成果を知財管理誌などで公表する際、検索・分析の具体的な手法などは結果のみ記載されることが多いですが、委員会活動に参加すると、その背景・プロセスや他の手法について知ることができます。

また、当委員会内だけでなく、他の委員会や特許庁、知財専門家、機関投資家などとも意見交換を積極的に行っています。こうした活動を通じて、テーマの深堀はもちろん、様々な視点の情報に触れる貴重な機会が得られます。そして、当委員会から学んだことを社内に持ち帰ることで、自分の職場や仕事の改善に役立てることができます。当委員会で得た人脈をきっかけに、今まで繋がりのなかった会社や専門家と個別に意見交換を行ったケースもあります。

委員長や副委員長は委員の中から選ばれ、委員会や小委員会を取り纏めて活動を遂行する役割を担います。時には大変なこともあります。年齢、役職、知財歴など様々なバックグラウンドを持つ委員をどのように一体感を持って進めるべきか考える力（マネジメント力）を身につけることができ、社内では得られない貴重な経験ができます。新しいことを学ぶやりがいや楽しさを感じられます。

委員会への派遣は一定の工数・コストがかかると思われる会社もあるかもしれませんが、それ以上にリターンが得られ、キャリアアップも期待できます。

Q 委員会としてのこだわりは？

委員のみなさんは貴重な時間を割いて参加いただいているので、活動を形として残すために、研究テーマに対する成果物（知財管理誌への投稿や東西部会での発表）は原則として出すようにしています。当委員会は、企業の国際競争力強化のための情報調査力の向上、多様化する情報に対する分析力の向上を目指しています。また、国内外の特許情報施策に係る情報の発信・提言を会員企業などに行うことを目的とし、委員のみなさんや知財業界を取り巻くすべての関係者に貢献できる委員会を目指して、これからも走り続けます！